

発行所 ●大阪府グラフィックサービス協同組合コスモス会
編集責任 ●コスモス会事務局

朝日新聞大阪本社を 見学して

情報部会

2013年7月4日 昨年新しく誕生したフェスティバルタワーにある朝日新聞大阪本社の見学会が行われ16名が参加しました。

朝日新聞社への見学の7割が小学生だそうです。そんな中、子や孫が小学生ぐらいの年代、おまけに印刷業に携わる私たちプロを相手に説明される朝日新聞の方も少し戸惑っておられました。アルミ版・CTP・輪転機・大豆油インキ・オフセット印刷など聞きなれた言葉ばかりです。大阪で生まれた朝日新聞の第一号が発行されたのは1879年(明治12年)1月25日土曜日。当時はA4より少し小さいサイズの紙面4ペー

ジ、一部1銭でした。見学日の2013年7月4日は48283号(創刊からの通し番号)です。この間の長い新聞発行の歴史をお聞きしました。夏目漱石や石川啄木など有名な文学者も社員として在籍したそうです。名物コラムの『天声人語』(天に声あり人をして語らしむ)は1904年1月から始まり今年で1

09年。現在は2人の論説委員が交代で書いています。又、取材をする記者の方についてのお話も聞きました。コスモス会では今から19年前に「毎日新聞社見学会」がありました。その時のコスモス通信に「記者は一人1台のワープロを持ち」と書いてありました。現在の記者の持ち物はノートパソコン・デジタルカメラ・スマートフォンなど大きく変わりましたが、記者の方の取材に取組む気持ちは変わらないのだと感じました。その記者が書く記事は全国で一日約120万文字。文庫本にして約8冊にもなりま



フェスティバルホール大階段の前で

す。そのうち新聞に掲載されるのはわずか1冊分だそうです。多くが埋もれてしまっているのですね。

普段は新聞を読む面が限られるのですが、あまり読まない記事も読んでみようと思

います。新聞はあたりまえに私たちの身近にある物ですが、発行部数は年々減少しており、2012年では1世帯あたり0・88部と新聞をとらない世帯も多くあるようです。インターネットですぐに必要な情報が得られる現在ですが、やはり朝起きて玄関に行き配達されている朝刊を取って目を通す。そこから一日が始まるように思うのです。

コスモス通信も今回で通巻233号と今は年8回の発行

コスモス会HPブログより

拾い読み

雨音の記憶

2,3歳、いや3,4歳の頃ははっきりしないがうとうとと眠りにつくころ、決まって聞こえる音があった。それは、ザアザア、ザアザアと大きくなったり小さくなったり狭くなったり広がったりする暗い土管の中を通るようで、とても苦しくなった。外は雨が降っているのかと思っていた。

10年ほど前、精神科医と話す機会を得た。消えない雨音の記憶を話す

と、医師は、それは生まれる時の記憶だと聞いた。難産で生まれた赤ちゃんは、なにかしら記憶が残っているらしい。

昔は、家で産婆さんが取り上げるのが普通だった。「お前を生むときが一番苦しかった」と、母親は言っていた。

柔らかい脳に刻まれるぐらいだから、生む側はもちろんだが、生まれ側も苦しいんだなあ

と、改めて思う。真夏日の続く日、雨が恋しくなって、ふと思

出した。

予告

コスモス会ゴルフコンペ

10月26日(土)

牧野パークゴルフ場

詳細は9月号通信に同封いたします

◆第6回役員会報告◆

日時：7月12日(金)6時00分
場所：「うお佐」
出席者：岡・森沢・木原・坂本
深田・宗次
岩下顧問

◆会長あいさつ
前田・山田・山中各相談役

◆OGS理事会報告

・6月のOGSの役員会で名古屋大会のお礼を申しました。

・ピアパーティイ、ゴルフコンペのお誘いと総会の報告がありました。

◆その他

・名古屋大会の収支報告。
・次回、9月の役員会の場所は「オリーブ」

一筆箋

私は、猫が大好きです。



イタリアでは、のら猫のことを「ガットトリペロ」(gatto=猫、libero=自由)と呼ぶらしいです。自由猫です。

「猫は生まれ育った場所です生きる権利がある」という条例もあるそうです。

のらちゃんを大切にするのは、人から見て環境的に良いことばかりではないでしょうが、愛情を持った眼差しは嬉しくなってきました。

森沢美和子

今回は山田 益子さんです。